

国語科学習指導案

1 単元名

スピンアウト作品を書こう

～「人物像」と「背景」を手立てとして登場人物の内面を書く～

2 単元の目標

(1) 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。〔知識及び技能〕(3)エ

(2) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

本文にはない描写を想像し、表現して、読み合う。

(関連:〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

4 単元設定の理由

(1) 本単元で扱う言語活動と教材

本単元では、文学的な文章を読み、その文脈や登場人物同士のやり取り、作品の舞台となっている時代背景や風俗、生活環境などから、本文には書かれていない場面や登場人物の心情を想像し、その内面を書き表すという言語活動を設定する。

書かれていない部分を創作していく活動は、内容把握はもちろん、作品の解釈を経て、自らの言葉で表す活動である。そのため、読み取ったことに、自らの知識や考えを織り交ぜて表現していく

ことが必要になる活動であると考え、設定した。自分が書いた作品の中には、それまで生徒自身が経験してきた事柄や学んできた知識などが色濃く反映されると考える。

「スピンアウト」とは、元来ビジネス用語であった「スピノフ」から生じた言葉である。今日では、映画や漫画などの「派生作品」の用語の一つとして使用される。本編と同じ世界観を持ち、同一の制作者が作ったものを「スピノフ」というのに対し、「スピンアウト」は公式ではない第三者が制作しているものを示す。「スピノフ作品」や「スピンアウト作品」などの派生作品は、本編作品を多角的に見直し、新たな発見や感動を味わうことができるものであると考える。このように派生作品は、本編作品に対する考え方や感じ方を深化させる手立てであると考え、言語活動に用いた。

また、内面を想像して書くという活動を採用した背景には、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』において、「第2章 第4節 3 内容〔思考力、判断力、表現力等〕 B 読むこと」における言語活動例「ウ 小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換える活動」という文言にからも着想を得ている。解説では「他の形式に書き換えるために、小説を自分の知識や経験などと照合させながら繰り返して読むことは、読み手の認識の変容を促すとともに、文章を客観的、分析的に読むことになるため、文章の内容や表現の工夫に着目した、より深い小説の理解につながる」と明記している。さらに、「脚本に書き換える」ことについては、「戯曲という文学的な文章の一つの種類に親しむことにも通じる」としている。また、同指導事項には「A 書くこと」における言語活動例「創作する文章としては、小説や詩歌のみならず、随想や戯曲、伝記

他あらゆる文学作品が想定される。」という文言がある。これらの記載から、「文学国語」において「戯曲」というジャンルを強く意識していることがわかる。「戯曲」というジャンルに、中学校段階で先駆的に触れておくことは、今後の国語教育の表現の幅の拡充につながると考えた。しかしながら、随想や戯曲などの形式に初めて触れる生徒も多いため、本單元では「独白型」のモノローグ形式に近い創作活動を「戯曲」の入り口と考え、「内面を書く」と設定した。

本單元で扱う教材は、『国語 2』（光村図書）に掲載されている「盆土産」（出典：『冬の雁』）を取り上げる。時代背景や方言など、生徒たちの実生活との相違点が多くある作品ではある。しかし、自分との共通点がないような登場人物の人物像や背景などに着目し、心情に触れるという創作的な活動を行うことで、作品と自分とのつながりを見出す手段を学ぶ機会としたい。

作品は、一人称視点で展開しており、読者は登場人物である「一家の弟」に自身を重ねて読み進めていく。そこで生活状況や習慣、風俗的なものの描写から、時代背景や登場人物の人物像を考えることができる。

創作の対象として、今回は「弟」「父親」「祖母」「姉」から選択できるように設定する。また、内面を書く場面を「バスの発車直後」と指定することで、物語の全体をとらえた読みを引き出したい。その際に、「弟」を中心とした物語のプロットを時間軸でまとめたものを提示し、場面を想像する手立てとする。また、内面を創作していくにあたり、「人物像」と「状況」を整理する。これは、個人の特性とその人が身を置く環境が言動や考え方に大きく関わってくると考えたためである。

創作した作品には、生徒個人個人の知識や経験に導かれたことが書かれている。生徒同士が互いの作品を読み合うことで、本文の新たな一面に気付き、文学を読むことの楽しさを実感する機会としたい。

（２）本單元で身に付けさせたい力

本單元では、文学的な文章を読み、作品の解釈だけにとどまらず、自らの知識や経験を踏まえ、多様に作品を読み深めることのできる生徒の育成を目標としている。『中学校学習指導要領』で示されている「２〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ読むこと」における「Ｃ（１）オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。」ことを主として設定した目標である。

指導要領解説には、「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付ける際には、関連する知識や経験を想起して列挙するのみでなく、それらと結び付けることによって、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが重要である。」と記されている。

本文で書かれていない部分を創作するという活動は、作品と生徒のつながりをより意識できるものである。内面を書き表すにあたり、登場人物の「人物像」の理解は欠かせない。物語は「弟」の視点から展開されているので、「弟」の視点から語られているそれぞれの人物の描写をもとに、登場人物それぞれの人物像を想像することが必要である。また、登場人物たちが生活している時代背景や環境、風俗的なことにも着目し、調べたり考えたりすることで生徒の知識を補填し、作品を理解する一助としたい。当時の青森県の出稼ぎに行く様子などをインターネット等で調べたものを、Google Jamboard を使用し、全体で共有する。そのあと、映像資料を見て、当時の生活の様子を把握する。

このように、登場人物の「人物像」と「状況」を考えすり合わせていき、創作にあたる。「人物像」や「状況」から想像できる描写を Google Forms で学級全体の読みを共有できるよう手立てとする。

出来上がった作品を生徒相互に読み合うことで、自分だけでは気付けなかった作品の新たな一面を見直すことができると考えた。

本單元では、「スピニアウト作品を書く」とい

う言語活動を通して、細かな描写から書かれていない人物像やそれぞれの人間模様を想像し、作品を読み深めることができる。さらに、作品に表れている時代背景や生活環境を理解することで、作品を多角的に読むこともできることに気づかせたい。作品をただ読むことでも味わうことは可能だが、読者自身が作品に対して調べたり考えたりすることによって、新たな読みが出てくることが読みを深めるための手段であり、本単元の学習の目的でもある。

（３）社会生活とのつながり

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』において、新たに設置された「第4節 文学国語」では、「特に文学は、人々の心の機微を書き、日常の世界を見つめなおす契機として、我々の文化を築く上で重要な役割を果たしてきた。豊かな感性や情緒を備え、幅広い知識や教養をもち、思考力、判断力、表現力等を身に付けるためには、文学作品などの文学的文章を通した様々な学習が必要不可欠であり、今後の文化の継承と創造にも欠くことができないものである。」とされており、文学作品だからこそ培われるものを明記している。文学作品は、人類の文化の発展に寄与してきた。生徒が今後の人生においてどのように文学作品と関わっていくかが、自己の発達だけにとどまらず、文化を継承する担い手として成長にもつながると考えた。

そこで本単元では、学習者自身が文学作品を読み深めることで文学の魅力に気づき、読書生活において文学に親しんでいくことを想定して設定した。

文学に親しむために、まず、本単元では自分の知識や経験と結びつけて文学を読むことを生徒にも体験してほしいと考えた。生徒たちが生活する現代とは異なる場面設定がされることも多い文学において、その作品に書かれた時代背景や情勢を知ること、登場人物に寄り添い、より深く

文学作品に親しむことができる。そのためにGIGA スクール構想における一人一台の端末は有効な手立てとなるだろう。インターネットを介した検索だけでなく、教師からの画像や動画の配信など様々な活用をしながら、自分の知識を増やし、新たな文学の読みを形成していったほしい。また、創作した作品を互いに読み合い、それぞれがどのように文学を読み取ったのか、なぜ創作でその表現にしたのかを交流することは、文学に親しむきっかけになると考えた。社会においても、読書好きな人が集まって互いに読みを交流する読書会が開催されることがある。そこまでではなくとも、新刊や話題の本などを読み、感想を伝え合うような場面もあるだろう。こうした交流も文学を楽しむ一つの手段であり、本単元で交流した経験に魅力を感じ、社会生活においても交流を通して文学に親しむ学習者を育てていきたいと考えた。

さらに、本単元で扱うスピンアウト作品も文学に親しむ一つの方法であると考えた。近年、映画の世界でも、往年の名作の悪役に光を当て、主人公として書き出したスピンアウト作品が上映されている。こうした作品を見た人がもう一度原作を見直し、新たな魅力に気付いたという話もよく聞く。文学においてもこうした作品は可能であり、実際には書かれていない登場人物の行動や心情を描写から想像することは、文学を味わう一つの手段になると考えた。

このように本単元で設定した言語活動を通して、文学の味わい方を知るきっかけとし、今後の社会生活において文学に親しむ生徒を育てていきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)	①粘り強く登場人物の人物像と置かれている環境から心情に寄り添い、書かれていない部分を表現しようとしている。

6 指導と評価の計画（5時間）

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
0	○ 予習プリントで、構成や人物関係、時間軸のプロットをまとめる。		
1	○ 本文を通読し、描写から時代背景や生活環境を調べたり、考えたりする。	「知識・技能」	Google Jamboard Google Forms
2	○ 登場人物それぞれの「人物像（性格など）」と「状況」をまとめる。	「思考・判断・表現」	ノート Google Forms
3 ・ 4	○ モノローグの形式をおさえ、設定された場面における「誰」の内面を書くのかを決めて創作にかかる。	「主体的に取り組む態度」 「思考・判断・表現」	観察 ワークシート
5	○ 創作した文章を読み合い、感想を書く。	「知識・技能」 「思考・判断・表現」	スライド Google Forms

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○本文を通読し、場所・人物・時間の観点から場面を確認する。 ○登場人物を確認し、相関関係を整理し、確認する。 ○本文を通読し、登場人物の会話や生活様式、情景などから時代や場所、世情をまとめる。	・「スピンアウト作品」について触れ、派生作品が本編にどのような影響を与えるのかを考える。 ・大きく2つの場面（盆入りの前日、盆入りの日）に分けたうえで、さらに7場面に分ける。 ・「弟」の一人称視点であることを確認し、展開に関わる登場人物を挙げ、「弟」との相関関係でまとめるように助言する。 ・会話表現に表れている方言や描写されている物などから時代背景や生活圏を推し量れる	

		描写に目を向けて、インターネットなどを使い、時代やその世情を探れるように支援する。 ・ Google Jamboard を使用し、「時代(年代)」「生活圏(場所)」「作者・作品」の情報をそれぞれの付箋の色ごとにまとめ、グルーピングを可視化する。	〔知識・技能〕① Google Jamboard Google Forms ・ ここでは内面を書く際に、前提となる作品の背景を整理して、理解していることを確認する。
	着目すべき描写 ○時代を探れる描写 ・「牛乳の空き瓶」 ・「囲炉裏」 ・「冷凍食品 えびフライ」 など ○生活圏 ・「うめもんせ」「ばためぐなじゃ」などの方言 ・「東京の上野駅から近くの町の駅までは、夜行でおよそ八時間」 など	・ Google Jamboard に書かれている情報を整理し、「作品に書かれている家族は、どのような時代や生活状況であったか」を Google Forms に打ち込み、全体で共有する。 ・ 映像資料「昭和の街角シリーズ 01」「出稼ぎ安全祈願」を生徒に見せることで、視覚的に当時の生活をとらえやすくする。 ○映像資料を見て、当時の様子を確認する。	
2	○登場人物それぞれの「人物像(性格など)」と「置かれている状況」をまとめる。 ①本文中の「どの描写」から「性格、家庭内での役割など」を想像できるかを考える。 ②見つけた描写と推し量った内容を Google Forms に打ち込む。	・「弟」の視点から、それぞれの登場人物がどのように描写されているかを確認し、人物像を想像することを確認する。 ・ Google Forms に打ち込むことにより、学級全体で共有する手立てとする。	〔思考・判断・表現〕① ノート、Google Forms ・ ここでは内面を書く際に、前提となる登場人物の人物像を整理して、理解しているかを確認する。
	着目すべき描写と推し量ることができる人物像 ○「弟」 ・「不意にしゃくり上げそうになって」 →寂しいがそれを父親には悟られないように我慢している ○父 ・「とって付けたように」→沈黙(罪悪感)に耐え切れなかった優しさ ・「いつもより少し手荒い」→父親も寂しさを感じている ・「何も言わずに、片手でハンチングを…」→後ろめたい、泣いている? ○姉 ・「分校の子供に物を教わるのはおもしろくない」→負けん気が強い		

3 ・ 4 本 時	○モノローグの形式を理解する。 ○創作文を書く。 ①スプレッドシートから、モノローグを書く際に活用したいと思った他の人の意見を取り上げ、ワークシートに記入する。 ②①を踏まえて、創作する。 ③創作したものの解説を書く。 ○書いたモノローグを、スキャンして提出する。	・教師が作成したサンプルを見て、「心の声の描写」や「誰に語るわけでもない独白」という特徴に気付くようにする。 ・前時の Google Forms をスプレッドシートにし、配布することで学級全体が共有できるように配慮する。 ・創作が困難な生徒は、他の生徒の意見を参考にし、教師の作成したサンプルに当てはめて書けるように支援する。 ・モノローグを書く際に、場面と人物の選択理由や表現上の工夫などを書くことによって、次時の交流に役立てる。 ・提出したデータをスライドに張り付け、Google Classroom で配付する。	「主体的に学習に取り組む態度」① ワークシート ・前時までの学習を踏まえて、描写に表れている登場人物の心情を推し量りながら、書こうとしているかを確認する。 〔思考・判断・表現〕① ワークシート ・前時までの学習や踏時代背景・状況をまえ、登場人物の心情が生徒自身の言葉や工夫で明確に表現されているモノローグであるかを確認する。
5	○互いの作品を読み合い、感想を書く。	・Google Forms に入力することで、即時的に互いの感想を共有できるようにする。	〔知識・技能〕① Google Forms ・他の生徒の作品を読むことにより、新たな視点や考えに気付き、考えの広がりを確認する。